

【40用 語】

【俄…にわか】急に、突然

【殊ニ…ことに】とりわけ、とくに、そのうえ

【希代…きたい・きだい】「稀代」とも書く。世にまれな珍しい

こと、たぐいの少ないこと、めったに見られないこと

【不存寄…ぞんじよらず】思いかけず、「存寄」は考え、思いつき、意見

【大変…たいへん】大きな変事、一大事、ここでは浅間山の大噴火を指す。

【難渋…なんじゅう】苦しみ悩むこと、暮らし向きが苦しいこと

【実入悪敷…みいりあしく】穀物などの実り具合が悪いこと

【難儀…なんぎ】困難、苦しみ、苦労、迷惑、悩み

【何卒…なにとぞ】どうか、何とかして、是非

【見分…けんぶん】役人などが立ち会い検査すること、状況を査察すること

【何分…なにぶん】どうか、なにとぞ

【難有仕合…ありがたきしあわせ】感謝に堪えない、願ってもない幸運、感謝すべき処置

【40解 説】

天明三年（一七八三）七月八日の午前、前々から小規模な噴火を起こしていた浅間山が大爆発し、それと同時に溶岩や火砕流が北麓斜面を流れ下り、吾妻郡鎌原村を埋め尽くしたあと、その土石流は吾妻川へ押し出し、さらに利根川まで流れ込み、川沿いの村々に大きな被害をもたらしたことはよく知られているところである。

本文書は、吾妻川の中流域に位置する吾妻郡植栗村（現、東吾妻町植栗）の村役人が、幕府代官原田清右衛門の手代に宛てた荒れ地見分願いである。植栗村では同日の昼頃、上流から大水が流れ下り、村民や家屋の被害はなかったようであるが、川沿いの田畑を押し流し、また噴火による降灰で諸作の実入りが悪くなったことから、この泥入り田畑の実地見分を願い出たわけである。

なお、この大災害に対して、幕府も勘定吟味役の根岸九郎左衛門に命じて八月下旬から道橋の復旧、堤防の改修、耕地の復興などの「御救い御普請」を実施することになった。